



自然を守ろう！

みたか環境ひろば

令和8年4月号 vol.95



1

プラスチックの光と影

マイクロプラスチック汚染に
我々は何ができるのか

三鷹市・みたか環境活動推進会議主催の環境講座「プラスチックの未来を考えよう！～環境学習&ものづくり体験～」で講演をさせていただきましたので一部を紹介します。

一度自身の身の回りを見渡してみてください。どれだけのプラスチックが日常生活で用いられているのでしょうか。プラスチックは日常生活の様々な場面で用いられており、多くの産業で利活用されています。とりわけ、食品衛生や医療分野ではプラスチックの恩恵を受けています。その一方で、1度しか用いない廃棄されるプラスチック(ワンウェイプラスチック)製品も多く存在しています。

5mm以下のプラスチックであるマイクロプラスチックが人間の体内に入っている現状に対して、プラスチックごみをただ単に出さないようにするだけでは本質的な課題解決に繋



がりません。では、一体我々一人ひとりできることは何でしょうか。例えば、「街中のごみを拾う」・「天然素材を利用する」等、それをより具体的に「イメージ」して、実際に「行動」ができるかが問われています。(中山)

2

地球上6回目の大量絶滅

先日ラジオを聞いていると、生物の大量絶滅についての話題が流れていた。地球の歴史を振り返ると、過去に5回の生物の大量絶滅があったようで、5回目は恐竜の絶滅であり、いま私たちは6回目の大量絶滅に向かう時期にあるともいわれているようだ。かつてない速度で多くの種が失われつつあり、その影響は人類にも及びかねないらしい。絶滅の危機を完全に避けることは難しいが、絶滅の未来を少しでも先延ばしするための行動はでき、地球上の一人ひとりが力を合わせれば、その積み重ねは大きな力だそうだ。それは、無駄な水を使わない節水、ごみの分別など、日々の当たり前の行動で、人類全体が意識して続ければ、確かな変化につながるということだった。この話を聞いて、「思考し、伝え、行動できる」のは私たち人類の大きな特徴であり、私たちが環境問題に取り組む根本の理由は、ここにあるのではないかと感じた。(籠宮)

雪山から考える再生可能エネルギー



今季の寒候期は気温・降雪量とも平年並みで、ウィンタースポーツを楽しめました。私も冬季五輪を機に雪の魅力を再認識しました。しかし日本の平均気温は長期的に上昇し、将来は降雪や積雪の減少が懸念されています。スキー場も人工降雪機やリフト運行などで多くのエネルギーを使い、CO2排出と無縁ではありません。近年は太陽光発電をはじめ地熱や小水力など再生可能エネルギーの導入が進み、「雪のある未来」を守る経営が広がっています。

遠く離れた雪山の取り組みに思えるかもしれませんが、しかし、気候変動は地域を問わず私たち全員に関わる問題です。三鷹市に暮らす私たちにとっても、省エネルギーの実践や再生可能エネルギーの活用を進めることは同じ未来を守る行動につながります。ウィンタースポーツを楽しむ人も、そうでない人も、次の世代にどのような冬を残したいのか。この問いを共有しながら、地域からできる環境対策を一步ずつ進めていくことが大切だと感じます。
(扇野)



ミラノではハトにエサやりすると罰金約44,000円！

日本選手も大活躍したミラノコルティナ五輪。そのミラノでは街の環境を守るためハトへのエサやりを禁止しています。残念ながら野生動物に対して「エサをやるのが動物愛護」という誤った考えを持つ人も多くいます。このような罰金措置はイタリア全土で実施され、ベネチアでは約80,000円（令和8年2月16日時点）にもなるそうです。

かつて三鷹市の井の頭池でもコイや野鳥に餌やりをする行為がよく見られました。現在はボランティアや公園関係者がエサやり行為に注意や説明を行い、あまり見なくなりました。日本国内でも環境保護のため、エサやり禁止の条例を制定している自治体も多くあり都内でも複数の区が制定しています。

やすくなります。

また、エサやりで増えた動物のせいで減ってしまう生き物もいて生態系へも悪影響です。エサはほぼ人の食べ物で、野生動物にとっては有害となる場合があります。「エサやり」がペットや家畜、動物園などのイベントだけになると環境改善にも繋がります。
(福井)

自然を守ろう！



エサやりすると生き物の生活が狂います。楽にエサにありつくと自然界で生きて行く力を失います。エサやり目当てに集まる魚や鳥などが増えるとさらにエサやりが増える、という悪循環にもなり周辺でフン害や環境の汚染を生みま
す。鳥インフルエンザ等の病気も広がり

次回の発行は
令和8年7月の予定です

発行	みたか環境活動推進会議 (愛称 みんなの環境)
連絡先	三鷹市生活環境部環境政策課 0422-29-9612(直) kankyo@city.mitaka.lg.jp



※ 本誌は、市役所、市政窓口、図書館、コミセンや市のHPから入手できます。